



# ジョッキという名のスポーツマン

— その競技年令は？ —

平戸清

最近の競馬を見ていると、若手騎手の活躍はまことにめざましいものがある。加賀、津田、丸目、前田、佐藤征といつた二十才前後の青年たちの奮斗ぶりは、騎手の世界にもどうやら新旧の交替期が迫りつつあるという感を与えているようだ。

体力を必要とするスポーツの世界では、何んといつても活気あふれる若さがモノをいう。とくに直接体力を競り合う相撲とか拳斗とかの部門では、三十才を過ぎればもうオールド・タイマーである。相撲では現在幕内の最年長者は三十七才で、三十四、五になればもう引退を噂さされる歳である。拳斗しかり、野球もしかり、陸上競技でも水泳でも三十才を過ぎれば、もう新しい波に押されてしまふ。競馬の世界もやはりそうなのであるか？

いま中央競馬に属しているジョッキという名のスポーツマンは、昭和三十五年三月一日現在の調べでは一九一人いるが、その年令を調べてみると次表のようになつてゐる。

調令 (35年3月1日現在)

調令	才51~60	才41~50	才31~40	才21~30	20才以下
才	名	名	名	名	名
1	2	4	6	9	
2	2	2	1	14	
3	1	2	8	8	
4		3	2	9	
5		1	3	11	3
6		2	3	11	10
7		1	3	17	14
8		1	3	9	5
9	1		6	10	
10			4	5	
計	4	16	36	103	32
%	2	8	19	54	17

総数 191名 平均年令 27.7才

係はどうであろうか。昨年度のベストテンをみると第一位の保田が三十九才(三十五年三月一日現在。以下同じ)第二位野平祐三十一才、第三位栗田二十七才、第四位北橋二十四才、第五位蛭名四十一才、第六位高橋英四十一才、第七位坂本四十二才、第八位内藤二十九才、第九位

大根田二十八才、第十位増沢二十二才となつていて、三十一才以上と三十才以下の割合は、ちょうど半々であり、四十才以上が三人も入つていて、この十人の平均年令は三十二・四才となる。

また、今年度の現在までの関東、関西のベスト・テンをみると、関東の首位は三十九才の保田であり、関西の首位は三十八才の浅見で、三十九才の境、四十一才の高橋英、三十八才の清田などもその中に顔を並べている。

つまりこれで見ると、騎手の場合には他のスポーツと較べて直接体力を競り合う度合いが少ないだけに競技寿命はかなり長く、三十才以上、あるいは四十才以上のもので十分に活躍の余地はあるようだ。逆にいえば、多年の豊富な経験とそれを通して得た技術が、なんといつてもモノをいい、年長のベテランでなければ、なかなか好成績はあげられないといえるようである。

アメリカの例をすこし見てみよう。いま生涯勝利記録で世界の首位に立っているのはジョン・ロングデンであるが、彼は一九五六年、イギリスの名騎手で「サリ」の称号まで受けたゴールドン・リチャーズがそれまで保持していた四、八七一勝の世界の記録を突破し、一九五八年末までに五、二三八勝をあげたもので、現在五十三才(一九五八年末現在、以下同じ)騎乗生活は三十二年という大ベテランである。

つきに四、一九〇勝で世界第三位のエディ・アーカーは、いま四十四才、騎乗生活は二十七年を数えている。さらに三、七九四勝で世界第四位のテッド・アトキンソンは、これも四十四才、騎乗生活は二十一年である。第五位はウィリアム・シユームーカーで三、二七四勝。彼はまだ二十九才で騎乗生活はわずかに十年というから驚異的だ。その他三、〇〇〇勝以上のものにジョン・アダムス、ラルフ・ネブス、ステイブ・ブルックスがいるが、これらはいずれも二十年以上の経験者である。

もちろん、騎乗生活が長く騎乗数が多いれば勝利数も多いのは当然ではあるが、毎年のリレーイング・ジョッキをみても、シユームーカーを除いては、例年やはり経験二十年以上のベテランがその位置を占めているようだ。しかしアメリカでも、一、四九〇人ばかりいる現役騎手の年令をみると、一九三〇年代、四〇年代生まれ、つまり三十才台、二十才台が圧倒的で、年長者はやはりすくなくつてゐる。もつとも歳をとつてゐるのは五十五才のハリ・マツタガアンで、一九五八年の成績は一八二回出走して二〇勝。つきに五十四才のパトリック・レミラードが七八戦二勝といつたところが成績のよいほうで、五十才台は十人ほどいるが、ロングデンのような特別な例外を除いては成績は概してかんばしくないようである。

日本でも五十才台は五十九才の小野留嘉を筆頭に、五十三才の黒沢文雄、五十二才の上村正行、田中常治郎と四人いるが、いずれも速歩専門で、そのうち上村は一〇七回出走二九勝をあげている。駆歩では武田作十郎の四十六才が最年長で、昨年の成績は五十三戦六勝。彼は黒沢、上村正とともに昭和五年から乗つていて騎乗生活三十年の最古参者でもあり、その元氣は賞されてよい。障碍では四十五才の本田昌雄が筆頭だったが、ことし限りでこの障碍の名手も引退してしまつた。駆歩で武田に次いでゐるのは四十四才の渡辺正人であるが、昨年度は七十一戦十一勝。大レースでいぜんたるベテランぶりをみせ得るの巧味を示しているのは立派である。その他四十才台には蛭名、高橋英、野平好、坂本、梶、高松などまだまだ体力的にも元氣で、縦横の活躍をつづけている連中が多い。ところで、これから十年経つたとしたらどうであろうか。いま五十才の人たちは速歩でももう乗れないであろう。四十才の人たちも駆歩ではむずかしくなる。三十才の人も三十四、五才までで、それより上の半数はそろそろ引退ということにならう。とすると十年後には、現在五十四才を占めている二十才台が三十才台となり、現在よりも三十才台の比率が上回つて中心勢力を占め、これに現在一四四才を占めている二十才以下がまた新しい陣容を加えて、結局十年後の形勢は三十才台が若干減つたとしても約四〇%、二十才台が増加を見込んで約四〇%、四十才台一〇%、二十才以下一〇%程度となることが想像され、平均年令は現在より少し上りそうな気がする。そして、まことに充実した騎手道はなやかな時代がくるであろう。

競馬の馬具一切の御用は  
 ☆☆ 中西馬具舗へ ☆☆  
 東京都世田ヶ谷区世田ヶ谷1の97  
 電話世田ヶ谷 (421) 3429  
 兵庫県宝塚市小林町

ビール党の **サッポロ**  
 (姉妹品) リボンシトロン・リボンジュース  
 東京・日本麦酒株式会社・銀座